変貌する街、渋谷を歩く　　評価まとめ　　TEKU･TEKU

■趣　旨　東京の副都心として８路線の鉄道が乗り入れる巨大ターミナル渋谷は、すり鉢状の地形と交錯する鉄道などによって非常に複雑な街となっている。この渋谷をより便利に、魅力的にするために、渋谷駅街区の大改造や駅周辺の大規模再開発が続々と進行していまが、多くの工事が同時し街が一層複雑化しているようにも思える。今回は大きく変貌しつつある渋谷を歩き、渋谷の魅力とは何か、渋谷はどうなるのかについて考えてみた。

■日　時　2109 年 10 月 14 日(月・祝)　14 時～17 時 30 分

■ルート　渋谷スクランブルスクエア(11/1 オープン)⇒渋谷ストリーム⇒金王八幡宮(渋谷城跡)⇒渋谷クロスタワー⇒渋谷ヒカリエ⇒渋谷駅⇒渋谷マークシティ⇒道玄坂⇒SHIBUYA 109⇒しぶや百軒店⇒Bunkamura⇒東急ハンズ⇒スペイン坂⇒渋谷公園通り⇒渋谷区役所＋渋谷公会堂⇒桑沢デザイン研究所⇒渋谷キャスト⇒渋谷のんべい横丁⇒しぶちか

■参加者　阿久根　直子、磯　達雄、井手　幸人、大竹　亮、重永　真理子、鈴木　丞治、高橋　謙、水谷　晴子、村田　英樹、華　媛媛　　【コーディネーター】栗原　徹

１．渋谷の街（全体）　評価 3.89（ＡＡＡＡＢＢＢＢＢ）

Ａ：極めて高いポテンシャルを持ち、商業・業務の拠点でありながら、複雑な地形などによる迷路性と妖し気な空間も同居する、多様性のある街

Ａ： おしゃれな場所です。自分のブランドの個性を表現したいですので、建物とかインテリアとかそれぞれアイデアを出しました。歩いて場所の雰囲気を感じて、現代のまちの中に古いところがあります。すごく面白いと思います。

Ａ:ダイナミックに変貌する渋谷の街並みに圧倒されました。日本で一番ホットな場所です

Ａ：たくさんの人が集まる吸引力のある街。常に新しいことが発信されている。

Ｂ：川と丘と坂道の複雑で特徴的な地形と、建築と鉄道が一体化した交通空間、若者消費文化の中心としての先進性などによる、非常に刺激的でユニークな街になっている。特に 1970 年代の西武（セゾン）の進出以降は独自の情報発信機能が高まり、変転の速度も増したことから、まさに中野収の言う「増殖する都市＝多元的宇宙・東京」を象徴する存在であろう。ただし、首都高２４６が駅と南側の街を分断していたり、ハチ公前広場付近の歩道に人が多すぎて歩きにくいなど、いま一つ快適性に欠けるのが残念だ。

Ｂ：駅周辺の再開発により、今までの街では処理しきれない交通量や溢れるエネルギーを受け止めて、これから街がどう変わるか、ワクワクしました。渋谷の谷（すり鉢）を通過した先の外周部に意外な空間が待っている都市構造の面白さを改めて感じました。すり鉢の中が、超高層ビルで埋め尽くされることへの危惧もありますが、それでもなお、面白くなるのでは、と思わせるエネルギーに圧倒されました。

Ｂ：地の部分ではまだ、渋谷を感じられカ所がありましたが、図の部分の変化には驚かされた。まったく新しい空間が創造されている。

Ｂ：谷の地形に発展した街の面白さ。歩き回るとそれが強く感じ取れる。

Ｂ：エネルギッシュで、若者には魅力的なまちだと思いますが、年を取ってくると、雑然として、人が多く、居るだけで疲れます。近年は、行く用事もほとんどありません。

２．渋谷駅周辺再開発（渋谷駅、スクランブルスクエア、ヒカリエ、ストリーム、マークシティなど）評価 3.44（ＡＡＢＢＢＢＢＢＢ）

Ａ：古い街並みと谷の地形をうまく利用して、融合的に重層しているのに、縦動線が判りやすいところがすばらしい。

Ａ：利便性の高いスクランブルスクエアがどんな商業施設を提案してくるのか期待が高まる。

Ｂ：渋谷の駅周辺の混雑は限界で、どこまでも続く雑踏には来街意欲を失っていました。再開発の第１の目的はその改善だと考えてきました。実際の再生途上の街は、それぞれのプロジェクト(安藤忠雄の渋谷駅は別として)は、エリアマネジメントを経てよく考えぬかれ、建築もかなり細部まで意識して計画され、ヒューマンスケールが感じられると思います。安藤忠雄の渋谷駅は､ネットで資料をいろいろ検索しましたが、安藤氏の言っていることも空間の意味も私には理解できませんでした。

Ｂ：水平方向、垂直方向、それぞれに都市的な提案を持っている。丸の内や大手町とは明らかに違うところを目指している。

Ｂ：すべてが完成すれば、全体として非常に面白い開発になりそうだが、駅街区に多くの機能が集積しすぎると、街全体への拡がりが損なわれるのではないか。

Ｂ：新しくできた各建物はスカイデッキや地下通路でつながれ移動がスムーズにできるようになったのは素晴らしい。しかし、自分がいる場所が認識できず少し不安になる。

Ｂ：前に渋谷駅はあんまり好きではありません。人が多過ぎるし、みんな歩きがはやく忙しそうです。入口が多いのでよく迷いました。スクランブルスクエアはいま建っていますが、模型を見て建物と駅がつながって素晴らしい作品だと思います。どうして日本では建物と駅を繋げるのですか？日本の土地面積が少ないからですか？人に消費を促すのですか？

Ｂ（ただし、現在はＣに近いＢ）：戦前の渋谷駅＋東横百貨店は巧みに地形を克服していたが、そのキャパシティが限界に達しての再開発にあたり、ヒカリエやマークシティでは駅のデッキからビルを通り抜けて街への歩行動線が確保されるなど、それなりに工夫されているし、渋谷ストリームに東横線の記憶を残しているのも評価できる。しかしながら、全体に建物群が巨大すぎてヒューマニティを欠く印象があり、工事中の複雑すぎる仮設通路は不便極まりないし、姿を見せつつある完成部分もデザイン的に凡庸に見える。

Ｂ：東急にＵＲが絡んで、区画整理事業で土地を交換して、順番に建て替えを行っているのはいい方法だと思います。オフィス床の需要があるうちに事業を成功することを期待しています。駅周辺の広場やペデストリアンデッキが広くなり、回遊性が向上して、空間的にゆとりが生まれるのは評価できると思います。大規模ビルができても、ヒューマンスケールを維持した空間計画となることを望みます。

３．特に印象に残った場所、建物など

◎渋谷ストリーム：東横線渋谷駅の記憶を継承し、渋谷川の再生も含めて良好な空間を形成している。

◎渋谷ストリーム：渋谷川に向けて開き、水辺の都市空間を再生しようとしている。

◎渋谷ストリーム：線路跡を生かした動線が面白い。

◎渋谷ストリーム：東横線の記憶を壁のデザインや床の材質に残しており、２Ｆの横丁のような空間も面白い。

◎渋谷ストリーム：Ｂ　東横線の線路の痕跡を残した空間デザインは評価できる。ただし、吹抜け空間は、冬は風がまさに吹抜けて寒いのでは。渋谷川の汚水処理が徹底されていないせいか、若干匂うのが残念。

◎渋谷川と旧東横線、渋谷ストリーム：渋谷の地形と歴史を新たな街に取り入れ違和感がない。渋谷ブリッジまでの連続性も考えては。

◎旧東急東横線のホームのデザインを継承した場所：以前の意匠が継承された歴史を感じさせる場所

◎八幡橋：水と橋とか、自然な所が好きです。昔の記憶を想像できます。あとは音の石が気になります。

◎金王八幡宮：静けさと緑が心地よい。
◎金王神社：渋谷にいることを忘れるような空間。
◎渋谷クロスタワー：1970 年代の開発における、建築と都市の関係づくりの模索が見て取れる。
◎渋谷ヒカリエ：展望スペース、模型が良かった。
◎ヒカリエ：Ａ　箱をずらして積み上げた特徴的なデザインが目を引く。中のお店もおしゃれで人も多い。上階のホールも便利で利用率も高そう。ただし、災害時の避難は若干不安あり（特にエレベーター）。
◎ヒカリエ～スクランブルスクエア： 現代的な場所です。11 階で渋谷の全貌を見せます。複雑な交通システムがあります。
◎銀座線が地上３階に出入りするところ。：これぞ渋谷の地形。これだけでも遊園地のようです。何らかの形でひばり号も復活できるといいです。
◎シブヤ１０９：渋谷のランドマーク、そして渋谷文化の情報発信の拠点として、渋谷のイメージの拠点となっている。

◎百軒店周辺：猥雑な路地から階段の坂道を上ると別世界に。学生時代に行ったカレー店ムルギーと名曲喫茶ライオンが今もあるのが懐かしい。
◎百軒店周辺：複雑な地形と路的空間など、大規模再開発にはない街の面白さが残っている。
◎百閒店の通りと建物：渋谷で昭和モダンを感じることができる貴重な空間。
◎渋谷パルコ：スペイン坂をそのまま建物外周を巡る外階段に引き込むような計画で期待できる。
◎渋谷スペイン坂：渋谷のアイコンとして健在でした。
◎渋谷公園通り：かつてあった魅力が失われているようである。
◎渋谷区役所：豊島区役所と同じ定期借地権のコンセプトであるが、表現が異なっていて街になじんでいた
◎渋谷区役所：Ｃ　後日、仕事で区役所を訪問しましたが、キレイなオフィスビルという感じで建物自体の魅力は感じませんでした。１階のカフェ兼食堂も、多目的室のようなところで、値段が高い割りに魅力を感じませんでした。民間事業者に付属的に建てさせたせいか、区役所としてのこだわりが感じられず残念です。
◎北谷稲荷神社：ビルの谷間に地形を生かしたモダンな宗教空間が潜んでいた。
◎北谷稲荷：桑沢デザイン研究所の脇の参道を入るという位置関係、坂道、そして現れるシンプルなモダニズム建築。境内を出ると、隣接してデザインを協調したかのような建物。意外性がいくつもあって、私これ Love ！
◎北谷稲荷神社：渋谷では神社も立体的な計画になっていることがわかる。
◎菊竹さん設計の北谷稲荷神社の社殿：こんなに軽やかなデザインができるんだ。びっくり。
◎桑沢の隣の神社、東福寺： 伝統元素で現代表現形式
◎宮下公園：区役所と同じ方式で、空中公園を整備して駅までの新動線としたアイデアが秀逸
◎渋谷キャスト：広場がホッとする空間になっていた。シェアオフィスなど、新たなエネルギーの発信地になることを期待します。
◎渋谷キャスト：Ａ　都営住宅跡地のシェアオフィスを、民間事業者にうまく複合用途で開発させたと思います。居心地のいい空間、建物になっていると思います。
◎のんべい横丁：小さな飲み屋が集積し、闇市のイメージが残る独特の雰囲気があり、ぜひこのまま存続してほしい。
◎のんべい横丁：道路は小さく、バーも小さいですが、環境はとても良いです。私は異なる時代にいるように落ちました。

◎のんべい横丁：恥ずかしながら初めて知りました。まさに奇跡的です。残ってほしい場所です。
◎のんべい横丁：Ｂ　新宿ゴールデン街のような、カウンターだけの小さな飲み屋街が残っているとは知りませんでした。昔のディープな渋谷の飲み屋街として残って欲しいと思います。
◎しぶちか：昭和のイメージが残る地下街で、なぜかダンスの衣装などの店舗が多い。
◎ハチ公前広場の地下街：名古屋や大阪の巨大な地下街とは比べるまでもなく、新宿や池袋に比べても小さいが、その内容は強烈な個性を放っていた。流行の最先端の地に「時の忘れもの」のような存在があるとは！

４．渋谷の街の魅力　（渋谷の街を魅力的だと思いますか？　その魅力はどこからくると思いますか？）

◎とても魅力的だと思う。それは、①渋谷川と宇田川が合流する谷間の複雑な地形、②中世鎌倉街道や近世大山街道以来培われた長い歴史、③鉄道と建築が一体化した類まれな複合空間、という独特な条件がまずあり、その上に、1970 年代以降の西武セゾングループによる情報発信戦略の侵入によって、若者のみの流行を創り出す街という特権を得て、小さな駅ビルや地下街の外に歩いて回れる路地や坂道空間が広がってこれを助長・増幅し、ともすれば大衆性に陥る危険を小さな空間の集合体という多様性によって克服し、常に時代に敏感に新しさを追求して目まぐるしく変化し続ける街となった。これが渋谷の「都市空間の構想力」であろう。
◎渋谷の街は非常に魅力的だと思うが、人が多すぎて歩きにくいのが難点。渋谷の魅力は、面的に広がる圧倒的な商業集積、高級住宅地や百貨店、ホテル街が近接する街の多様性と迷路的な街の奥深さ、そして若者文化の拠点としての情報発信力によるのだと思う。
◎人があふれるスクランブル交差や歩道。これだけの人が集まるまちは世界でも珍しい。若い世代をターゲットとしたショッピング、イベント、飲食等の店々の輻輳化して集積し迷路化されている。さらにメディア等で、そこに行けば何か楽しいことがあるはずだと思わすような仕掛けがシナジーを起こしと、渋谷の魅力が形成されているのではないでしょうか。
◎高度に開発された都心部でありながら、迷宮性も兼ね備えているところに魅力を感じる。
◎空間の魅力
・地形の複雑さ、すり鉢の底付近の坂道
　目的地に急ぐ、効率的な建築計画などからはデメリットになりそうな、ある種の不便さ。
・金王神社の氏子という根が張り巡らされた、昔ながらのコミュニティとのオーバーレイ。
・外周部のそれぞれの場の持つ多様性・意外性、異質なものの共存
　例えば、百軒店・円山町、それらと近接する Bunkamura や松涛の異質さ。
・少し歩けば広い緑（代々木公園、明治神宮）がある安心感。
◎自由さと包容力
・型にはまらない人が活き活き（自己実現し）働く場がある。
◎エネルギッシュで、若者には魅力的なまちだと思いますが、年を取ってくると、雑然として、人が多く、居るだけで疲れます。まちの魅力は、雑多な空間で、新しいお店がオープンしたり、様々なイベントが開催されていて、飽きさせないということかと思います。
◎若い人にとって魅力的な街なのだろうと想像します。多くの人が集まりやすく、活性化しやすく、流行が生まれやすいからと思います。
◎やはり日本を代表する若者文化のメッカとしての存在感が魅力です。
◎ミクスカルチャーからくる魅力だと思います。

５．これからの渋谷　（渋谷の街はこれからどうなれば良いと思いますか？）

◎鉄道の乗り換え、主要な目的地への動線を分かりやすく。坂道など、すり鉢の中の空間の魅力維持。外周部への歩行者空間を快適に。すり鉢の中の回遊性ではなく外周部も含めて回遊する街に。あらたな発想で起業する若者を惹きつける多様な場がある街に。

◎渋谷の魅力が時代に敏感な小さな変化の集積の結果とすれば、駅周辺の大規模拠点開発はその対極にある存在といえる。しかし時代は少子高齢化であり、いつまでも若者のみの街では将来は見えない。多様な世代や集団、立場の人々が、それぞれの目的を果たすことができる複合的かつ重層的な街に変わる必要がある（レイヤーの街＝吉祥寺のように）。奥渋のように従来路線で変化して伸びるエリアもあれば、桜ケ丘のように全く新しい姿を現わすエリアもあろう。そしてそのためには、首都高２４６によって分断されている駅と南側の街をうまくつなぐこと、ハチ公口付近の歩道の混雑を解消することによって、自由に歩き回れる街を実現することも、あわせて望まれよう。

◎再開発によって大量のオフィスが供給されるが、単なる業務集積ではなく、常に新しい情報が発信される街になってほしい。

◎渋谷といえば、混雑というイメージがついて回るので、ゆとりの歩行空間が生まれるとよいと思います。特に NHK ホールまでの公園通りの道がもっと魅力的になってほしいと思います。

◎今後もリアルなサイバーパンクシティとして、世界に唯一無二の存在であり続けてほしいです。

◎変わり続ける渋谷として突っ走って行くのではないでしょうか。

◎百軒店あたりの入り組んだ路地がうまく残っていくといいのですが。

◎芝生が欲しいです。自然なスペースがあればいいと思います。

◎大人も落ち着いて、散策、飲食、買い物できる場所も作って欲しい。

６．その他、今回の企画についての感想など（自由意見）

◎変化の激しい渋谷は敬遠気味でしたし、最近の駅の大改良も混迷の極致ですが、今回その渋谷にＴＥＫＵ-ＴＥＫＵが挑戦するということで、どうなるかと心配でした。しかし、栗原さんの的確なコース設定と事前サーヴェイによって、小雨の中を時間内で効率的に見て回ることが出来ました。渋谷の最新の開発から奥深い多様なゾーンまでを実体験でき、非常に刺激的な街歩きでした。大変ありがとうございます。そして今後の渋谷は、どこへ飛んで行ってしまうのか、想像を超越したものがありますね！

◎日本に２年半住んでいました。学校は渋谷に近いのでよくこの辺を歩きました。でも、今回いろいろ新しい場所が発見できました。みんな一緒に歩いて自分の面白いところを交流して、普通は気にしないところがもう一回見て面白そうになりました。初めて日本の建築家の視点物を観察して、渋谷の街だけでなく、日本の文化と未来を考えました。自分の友達にも紹介したいです。

◎なかなか足が向かなくなった渋谷を歩き、その変わりようにビックしました。開発される渋谷駅を見て、東急百貨店の外壁など、坂倉さんのデザインを新しい建物に取り込み、従前の渋谷駅前の空間とデザインを継承した空間を新しい建物の中に再現できたら面白いんじゃないかな？などと妄想を思い描きながら歩いていました。

◎渋谷駅の周りのかなり広い範囲を歩いたので、駅前と周辺との関係性を意識し、渋谷という街の全体像が見えて来る企画でした。現在、渋谷は再生途上なので、節目ごとに訪れ議論すると面白いと思います。

◎渋谷の街を網羅的に歩いてその特徴があらためてよくわかった気がします。参加させていただきありがとうございました。

◎話題の渋谷を効率的に回ることができました。今後の発展と変化がますます楽しみです。

◎変貌する渋谷をコンパクトに案内していただいて、ありがとうございました。

≪コーディネーターより≫　渋谷の街は多くの再開発が進行し劇的に変貌しつつあります。再開発によって渋谷駅周辺の動線は改善され、新たな商業施設や大規模オフィスができますが、街はもっと魅力的になるのでしょうか。これからも渋谷の街に注目です。